

# 習近平第二期政権の21世紀大戦略構想

日外協は2017年12月、3人の中国専門家による特別パネルディスカッションを開催した。議論からは、政権二期目のスタートに当たる昨年10月の中国共産党大会ですでに習近平氏の権力基盤が確立していたことが分かる。



第19回中国共産党大会が行われた北京の人民大会堂 (徐氏撮影)

【パネラー】 (発言順、敬称略)

**徐 静波**

在日中国人ジャーナリスト・アジア通信社 社長

**加藤青延**

NHK 解説委員

**天児 慧**

早稲田大学 教授・現代中国研究所長

【司会】

**平沢健一**

G&C ビジネスコンサルタント 代表

## 中国の未来と運命について演説

平沢 5年に1度の中国共産党大会が10月(2017年)に行われた。習近平総書記の政治活動報告の中で私が特に注目したのは、「全方位外交と開放促進・一带一路」「新時代の中国の特色ある社会主義思想」「社会主義現代化強国建設」の3点。本日は中国の新しい布陣、新時代の特色ある社会主義、今後の日中関係などについて意見を交わしていきたい。



最初に、今回の第19回党大会(2017年10月18～24日)で誕生した新指導部についてどう見ているか。

徐 1997年の第15回党大会以来、20年間で5回、ずっと取材してきたと思うのは、今回の大会は厳粛かつ歴史観のある大会だったということ。習政権は腐敗取り締まりなどで大きな成果を上げてきた。こうした実績の上に立って行われた人事が目



されていたが、事前予想が外れることが多かった。情報管理がこれまでとは比較にならないくらい徹底されていたからだ。国家機密を漏らせば罰せられる。前回は開会の20分ぐらい前にマスコミにも資料が配布されたのに、今回はそれもなかった。習主席の演説は3時間半にも及ぶものだったが、2700人の参加者は終始緊張感に包まれていた。

第19回党大会は、1945年の第7回党大会に似ているのではないかと感じている。この時、「毛沢東思想」が初めて提唱され、「新民主主義国家」が建設目標として確定した。そして今回は「習近平思想」が提唱された。いずれも「百年の夢」という点で共通している。

習氏は最高指導者としてこの国をどうするのか、自分の理想、自分の夢、自分の目標、工程表を世界に向けて語った。単なる仕事報告ではない、中国の未来と運命に関する政治演説だったと言えるだろう。

平沢 外国メディアの反応は？

徐 世界のマスコミが目撃したが、国によってそれぞれ視点は異なっていた。欧米のマスコミは、